

414  
A4236

小物大臣大隈伯殿

親展

在奉浦

久木三郎

久木三郎

小月心 友 久木三郎





414  
A4236

久水三郎

親展

有昨今酒在光州之喜業之長  
奥村五郎子ハ岩下往美ヲ信也也京代有  
今人ヨリ由頼尋ニ有之君存中察  
中其多為人其面會ヲ下サ  
状況古園元ニ第六ノ今人ハ勿論下友  
たニ注ニ難ク長年存高木今波山村ハ務  
以反ハ其業の官之廻中出且同内布出注  
後多預入本邦ハ暑等激烈ト申事  
大向お玉家市加貴伏ニ多希上ハ打立取  
置ニ子ニ七ヨリニ



在木浦

久水三郎





大隈伯爵園下

在支那之重要多植長興村五子ハ本年三月  
子校事務多負クハ興村村長外七名ト共ニ未  
二君直、光州ハ正ニ茶一着ニ農事、蚕飼ノ類  
ニハ中校事務ヲ兼中ヨリ午末着、在支中次之ヲ觀  
ニ使交代ハハハ事務上ヨリテ、挫折ハ災カレサレ  
植長興村五子ノ不屈不撓能リ此困難ヲ切  
抜ケ今ハ茶二羽即チ工業科ヲ兼始ムルハ必要時  
トハナレリ依テ全版ニモ、諸般ノ事務ヲ兼テ本月  
末ニハ昔世ハ帆東亞也、由有之ヲ兼テ也、京  
ノ至ニ子ハ用件ハ在ノセリニ有之也

- 茶一 子校事務ノ件
- 茶二 向來方針ノ件



第三 工業教員養成所

第一經費、件々付下官に於ては、何れも政府より一室ノ屋敷ヲ補助スル事校より有効、  
モ、此所設立ニ成程及在在、尤も信託元金處、  
依りて該校ハ本校寺法主ノ直轄ト費用、一事ハ  
左法主より一事ハ本者より下付、市都府ノ由、  
本校寺ハ此所ハ分派現今ト居居出法布教者、  
對してサ、經費送進甚多、後慢、  
困難ハ其ノ歎、サハ、其狀ト有、  
計清、カチ、サハ、結果、  
集収して生計ヲモム、  
ニ、  
此後、  
此後、  
此後、

之れを以て本校建設、目的上より、本校寺一位  
スレハ、其ノ不、  
ヲ難シ、  
經費ヲ付而して本校、  
事業、  
向、  
之、  
第一、  
ト、  
之、  
在、  
ヲ、  
此、



者より清純其質より其類ハ直捷五百子より而  
同取ル成成之主業多ク成跡清々好都合  
こしテ先師外々も此法ヲ守ル者多ク有リ 師蘇宣  
教師ハ大日本ノ先々より上ク悔ハレ收メリ  
此法ヲ改テハ此法新ハ昔ヨリハ向來西風ハ利  
者不勤事ト信用スル  
主業ニ至テ報告スル供進ノ境ハ今ノ校ハ其  
無クは豫中注履ニ至ル迄ハ其法ヲ守ル  
以テ守ル者トシテ守ル者トシ

在木林

王事使事久水三郎

外務部友上村書付右局殿

名ニ至テ主業多ク校知立ハ其年最モ若ク奔走  
シテハ今御五百子トシテ其法ヲ守ル者多ク有リ  
其勉勵セシメ山岩下徳花ト有リ右方人ト及  
東方ノ其法ト同書外ハ其法ヲ守ル者多ク有リ



報告書

一四月八日一行着光以來凡一月間ハ初メテ日本婦人ノ内地深ク入  
レシ事トテ其評判忽々八方傳播シ遠近男女日々群集シ且又  
荷物取寄セテ為メ木浦及濟浦ハ十數回往返ヲ重テ為メ事務進  
行上大ニ障碍ヲ受ケシ此間專ラ用地ノ購買ニ勉メ先ツ豫テ内約セシ隣  
家崔翰鎮ノ家宅及敷地ニ就キ交渉ヲ試ミシ種々情實ノ伏スルアリ為メ  
觀察使カ自己ノ攻撃ヲ道レシ為メ專ラ下僚ヲシテ開涉セシムルヨリ遂ニ外方ノ  
故障ヲ惹起シ遂ニ其要領ヲ不得更ニ又勸メヨリ耕作試驗用地ノ名  
トシテ附近門外ノ壹町步許ノ畑地購買ヲ申込ニ漸ニ其談判ノ進捗ヲ  
見シカ折悪シク觀察使轉免ノ電報到着セシテ例ノ故障ヲ試ムルモ  
ノ出テ名ヲ以テ断然其交渉ヲ止ムルヲ得策ト心得茲ニ教授ノ一点ノミ  
注意シ直ニ其法ヲ購セシメ何分對州表ニ於テ切組ノ家屋到着セサルヲ  
以テ忽チ家屋ノ狹隘ヲ告ケ從テ教授上ノ都合ヲ感セシモ斯クテ止ムルベキ



ニアラサレハ無執一方、於テハ家室ノ増築ヲナシ又一方、於テハ養蚕製糸  
及農事一部等尤モ容易ノ試育試作ヲナシ以テ一般ノ縦覧ニ供シ傍ヲ  
生徒ノ募集ヲ觀察使ニ依囑シ官吏ヲ以テ其應募者ヲ求メシモ當  
國ノ慣習入ノ志願スルモノナク否便宜一旦食位ヲ施與セサルヨリハ到底其望  
ヲ達スル不能ト事ナリシモ如此經費ノ豫算上無之ヲ以テ突然如何トモスル不能  
已ニテ後任觀察使ニ對スル運動、必要ヲ認メ茲、上京ノ途ニテシカ幸ニ  
加藤公使ヲ始メ在京城有志ノ尽力周旋ヲ以テ首尾克歸光シ間モテ六  
月十七日新觀察使赴任セリ以テ今後事業伸張上ニ就テ種々費ヲ  
求メ第一柳林藪、桑樹植付及無等山、茶及桑樹播植、件件口頭ノ贊  
成ヲ得名ヲ以テ更此機、乘シ茲、又家屋狹隘教授上不便ナルヲ以テ新  
寺院ヲ建設シ在來ノ場所ヲ全然學校用ニ供セント欲シ右建築  
用地借入ノ要請ヲナシ元監獄署敷地ノ空地タルヲ以テ之ヲ指定セ  
シ後日再設ノ要アリトテ借入ノ不得更ニ其言、後ト他ノ民地、就

テ撰擇セシ恰モ隣居崔翰鎮ハ豫テ内約モアリ又帝ヲ兄圓心ニ  
從ヒ西京ノ行ヲナシ平生入懇ノ間柄ニテ今度家事不如意ヨリシテ其  
家宅放棄ノ意アルヲ聞キ直ニ前約ヲ履テ茲、又再契約ヲ結ヒシ又、  
文書交換ノ当日ニ至リ突然外部ニ報告シ之ヲ訓令ヲ待テ後処理ス  
ヘトテ且決行ヲ不得然モ相互ノ契約ヲ以テ後日決シテ他ニ放棄セサ  
ルヲ誓約セリ爾來土地購入ニ就テハ再三再四失敗ヲ重テシモ一般  
民ノ感情ハ漸ニ惹起シタルモノ、如ク已ニ冒刑部下榮山浦及茅山地  
方ヲ出張ヲ請フサハアリ今固又撤業ノ必要ヲ認メ之ヲ開始ノ手續  
ニ着手シ且新、女子通辨ノ雇聘セシヲ以テ今後養蚕製糸ノ教授  
上ニ大ニ便宜ヲ増スヘテ從テ對外表、於テハ家屋ノ到着モ近間ニ在ルヲ  
以テ今秋ヨリハ提灯傘及素麵等ノ製造教授ヲ得ヘリ只今後、於テ  
最大不便ヲ感スルハ用地ノ一点ニ若シ各國布教者ノ例、働ラテ之ヲ  
処理スルヲ得ハ其進捗更ニ一段ヲ得ヘシ尚別紙春夏蚕及製糸



其農業上之經過及將來該業之目的方法等檢定之上添付其  
右御報告申書也

光州府本願寺實業學校長

明治三十一年七月二十四日

奧村 五百

在木浦港

一等領事久水三郎殿

農事開拓報告

一渡韓當時已春季播種期迫りしモ何分早卒際用地購入借入等迅  
速ノ間合ハケリシヲ以テ茲ニ無擾當境內ニ於テ餘地ノ開墾ニ着手シ二十餘日  
間迄掛テ數百擔ノ小石ヲ除去シ以テ之ヲ試作地ニ充テタリ種類ハ專ラ蔬菜止  
メ總ニ千餘種最新害虫等少許ノ懸念アリシモ大抵皆好結果ヲ得タリ凡テ此  
地方一帶一部ノ山岳ヲ除キテハ大抵土質豊肥膏潤シテ肥料ヲ要スルコト少ク其  
種類ニヨリテ却テ施肥セズシテ其生長十分ナルモアリ地方栽培ノ蔬菜ハ其  
種ニ於テハ大同小異シテ各家多少ノ栽培ヲ見サルハナシ一朝若シ之カ需用ヲ増シ其  
利益ヲ知得セハ必ズ競フテ培養ニ從事スハ唯目下ニ府下少數ノ需用ニ止ルヲ以テ  
別ニ其額ノ顯著ナルモノナシ今若急遽ニ其増産ヲ見ント欲セハ唯彼等ノ見馴レガ  
新奇ノ種子ヲ搜擇シ之ヲ施與スル方取モ容易ナカシ又吾國主要ノ産物ニ米麦  
類ノ試作ニ前條ノ次第ナルヲ以テ之カ着手ヲ不得僅ニ其農地ヲ巡視シテ以テ其耕耘  
ニ極力指テ教導セシムルニ然レバ如此一朝夕ノ指教豈悉ク之ヲ實行スルヲ得ヘキ歟



當國人、事大根性、謾、地ヲ排自ヲ推ス、慣性間、各事、統ヲ質疑ヲ起シ、常ニ頓  
聒セサルミナラス、却テ嗤笑スルヲサマリ、今後採用スヘキ最モ適切ノ教授方法ハ  
先ツ適當ノ耕地ヲ購入若ハ借用シ可及的各種ノ作物ヲ栽培シ以テ其耕作  
場、社々實地ヲ縦貫セシメ且品質ノ良否收穫ノ多寡ヲ比較シ而シテ破カ頑  
昧ヲ打破シ後初メテ改良ノ急要ヲ感起セシムルニ任リ、今吾國、於テ帝作上最  
モ施設ノ急要、屬スラ水利灌溉ノ法トス、固ク一朝少シク日手天、逢ハハ木田忽々火  
田、凌シ時、或ハ丙子歲、如キ大山嶺ヲ來ス、アリト云テ又國中植林ノ法ナキヲ以  
テ且淫霖臻ル、アハ忽々河水汎溢為、沿岸荒蕪、地ハ同耕、統クヲ得ス之ヲ  
以テ一旦降雨順ヲ得、栉秋ヲ了ルセ常ノ寧息、至テ悲シ戲、競々安堵ノ期ナシト  
云フ、現、今歲、如キ一旦淫霖、田シ今又日魅、苦ミ居レリ、又害虫驅除モ灌溉  
ニ次ク急務ニシテ、現、昨年、當道各地ヲ始メ各道、於ケル米作ノ不良、之ニ因セシ  
多シト、今若シ溜池溝渠等ヲ設テ以テ灌溉ノ便ヲ計、漸次害虫驅除ヨリ一般耕  
耘改良ノ着手シ其一部ト至モ實行スルヲ得、其收穫ノ顯著ナル疑ヲ存セス、又畑作

モ米作同シ、統テ改良ノ急要ヲ見サルハナシ、殊ニ農具ハ著シキ舊風ヲ頑守シ其  
改良ノ要枚擧ギ、追テアラス、然レモ一朝我國、良器ヲ輸入シ候、新式ノ器械ヲ交テ以  
テ之ヲ示道セハ如此ハ又難事、非スト信ス  
一、當地方、於テ農産ノ顯著ナルモノハ米、大麦、小麦、綿花ノ首位トシ、各種豆類、胡麻  
エ、麻、苧、楮、桑、漆、苧、莞、及各種果實、蔬菜等ニシテ、就中莞ハ從來我邦ニテ  
見馴レナル植物ニシテ、之ヲ水田ニ培養シ、其質強ク、各種ノ蓆、制衣シ、其効我邦ノ  
簡、異ラズ、又今回新ニ藍、及茶ノ産出ヲ照會スルヲ得、タリ、藍ハ其需用未タ廣カラス  
後テ販路狹隘ナリ、以テ盛ニ栽植セスト至モ尚一年、數方、テ得、ル艱カラスト、其開成  
法、如キハ大ニ我邦ニ實ルヲ以テ直ニ之ヲ仕用シ得、ヤ否ハ疑問、附スト至モ若其方法ヲ改  
良シ、其産額ヲ增加セハ、後來或ハ當國、殊特ノ貿易品ニシテ得、ハレシ、又茶ハ從來當國ニ  
皆無ト稱セラレシモノ、今春初メテ之ヲ附近、無等山ニ發見シ、統テ試製セシ、其香氣  
強ク、良品ニ近シ、尚、近傍五、六里ノ間、數、相、起、ル、産地ヲ得、タリ、  
要スルニ、當道ハ、當國內、於テハ、氣候尤モ、順應ニシ、且、多ク、荒蕪地ヲ有シ、加之、土、氣、甚



夕音澳ナラ以テ今若シ法ヲ設ケテ以テ我邦人ノ移住ヲ促シ之カ同桑示道可  
当ラシメハ相互必ス大ニ利ムアルヘキナリ困ニ記ヌ当地方ニ於ケルヤ作法ハ其歳ノ  
豊凶ニ不爾収獲ヲ抵弔シ租税ハ地主ノ負擔ニテ凡我一及歩育志四六七於身  
ナリ

蚕絲報告書

今当校ニ於ケル春夏蚕飼育及ヒ製絲園藝播育ノ概況ヲ舉ゲテ春夏蚕種  
内地小石丸）四月十二日發生セシカ時当地在来ノ桑葉未タ折リ何分飼育スル  
事不能ク以テ只々湿润的蚕命ヲ保持スル事ノ勉メ方ニ桑樹ニ急成肥料  
ヲ施シ桑前ノ發生ヲ促シテ之ニ蚕見發生後一週間即チ蚕命ヲ保持シ得ルニ日マ  
ラニ至ルニ桑椹桑芽ノ發生ヲ見ル事ヲ得ヌ左リトテ他ノ策ヲ講シ標更ニチカセハ蚕  
生ノ蚕見ニ遠ニ餓死スルニ至リシカハ乍遺憾之ヲ捨棄シテ然ニ桑樹ノ養育ハ  
千旨即チ蚕ノ餓死後四日ヲ経テ初メテ芽房ヲ現ルニ位ニテ其小芽ノ綻開シ且時  
ハ其二十日ナリ今之ヲ内地一般ノ氣候及ヒ具ク氣象ニ依リテ動植即チ桑葉ノ養  
育ニ時氣ヲ對察セハ蚕ノ養育ニ應ルニ事概シテ一週間前後ナリ如此有  
様ナルニ係ラス当地桑葉ノ養育前後スルハ必然氣候不順ノ關係大ニ與リテ然ラシ  
ル処ナリト考ヘん當時ノ氣候ヲ言セシカ梅杏柳桃櫻林檎ノ類一時ニ皆ニ養育ナシ  
花時又同シトスラカ如シ宜ク氣象ノ然ラシム事ト云ヘ普通植物性質トシテ成育



上へ遷速、別アニモ依ラス早キモ遷キモ時同成タルカ如キハ曾ラ寔ニナル點ニ是当地  
地氣候上ノ實例ナリ前陳ノ次第ニテ日本蚕種ハ当季遂ニ飼育スル事ヲ得ザリ  
七六土地在來ノ蚕種ヲ購ヒ飼育スル事トモナリシカ具蚕發生ノ降ハ最早桑芽十  
分徒開シ居ル事トテ飼育上飼料ノ苦シ事ナカクシモ其國ノ事、任家度ニ不  
完全為ト人爲的所作ヲ飼育上施ス事寸毫モ出来サレセハ昼夜氣候ノ大變化  
シモ係ラス乍遺憾清涼育ミ飼育スル事トシ(飼育中昼間平均温度ハ八十三度  
三分ニテ夜間平均ハ四十九度四分ナリ)生後三十日間ニテ老熟上發スルニ至リ飼育  
結果良成績ヲ得タリ然レモ当地蚕ニテ珍シク今後ノ學設上大問題トナレハ  
事項ニテ授業中檢視シテ三眠ニテ老熟スル事ナリ普通蚕見ルモハ生後  
四眠ニテ老熟結繭ニ同ク變性蚕トテ三眠期ニ至リ小繭ヲ然結スルモノナキアラサ  
ルモ此ノ中變性蚕ノ事ト論スニ足ランモ吾國蚕ハ皆三眠ニテ老熟上發スルニ至リ  
是ニ眠期ノ時日普通蚕齡比セカ七十三度ノ平均温度ニテ飼育スルモノトシテ十四日ヲ  
費ストスル其齡期ノ平均時日ハ八日半ナリ然レモ当地産ルモノニテ當季飼育セン

蚕見ハ掃立リ老熟ニ至ル日子ヲ誦ヘ来ス三眠ニテ三十日ヲ費セリ依之觀  
之ニ眠期ノ時日八十日半ヲ要シタリ譯ナリ此蚕ニテ性未ノ質アルヤ又ハ氣候ノ閑  
係リ四眠蚕トシ普通種カ三眠蚕トシ變性ニシタルヤ否ハ大疑ノ存スル所ニシテ  
實ニ現世ニ動物學上ノ究理的大問題トナレ云ハ  
然リ而シテ当地在來ノ蚕種ハ皆全種類ニテ形狀皆楕圓細大繭色又淡濃錯  
雜セリ然リトモ其軟繭後之カ製糸率ナシニハ鹹維ノ細少ク伸縮力ノ強ナルトハ  
此種ノ良點ニシテ實ニ他ニ比類ナキヤハカ當季ハ創業ヲ降テ校舍不整又地方ノ  
人情ノ充分ニ探知スル場合ニ至ラザリセハ萬事不如意勝ナリシモ未觀者ハハ觀心タト  
飼育ノ法ヲ教ヘ又当地近在ノ飼育スル家々ハ養蚕中ハ毎日二回ツ、巡廻シ成繭後  
ハ又一家毎ニ製糸器械ヲ指テ出展シテ未熟ノ韓語ト等談ツ以テ教授ヲナセシ  
ニ地方一般春期ノ蚕況ハ不作ナリシモ教授セシ家々ハ成績ハ皆良好ヲ示シ製糸  
又且數ヲ得タル民心未期ヲ待テ學ヲシテ欲スルモノ漸ク未諳スルニ至リ如此ニシ  
テ以後年一年遂今ノ良法ヲ學ビ改進以テ利益ヲ得ラハ地方感情一變スルニ至



ラニカト思ヒ居テ夏蚕ハ六月下旬漸ク發生シタリシカ(果化蚕)其當時ハ降雨  
勝テ却テ蚕ノ成育ヲ助ケシモ三眠期ヲハ天氣一変快晴トナリ熱度高ク昼夜  
常ニ体ニ汗スル有様トナリ夜間ニシテ外氣八十度以下ニ降ラス昼間ハ九十七八  
度ニシテ外氣ハ何時モ百度以上ノ度ニ至リ昇降スル時候ニ變シタリニ熱近成  
績良好ナリシ蚕モ何ソ堪ニヤ日ニ斃死シ昨今ハ僅ニ蚕種製造ニ供シ得ルニ支  
ナリトモ残ラハヤト祈リツク飼育ニ從事能ク在リ轉法休題者地一般在來ノ桑  
柎ヲ見ニ高刈ノ仕立ニシテ栽植後別ノ耕耘施肥ノ手段ヲモナス事ナク且タ天然ニ依  
リ成長セシメ春氣飼育後直ニ刈採ニシテ新枝ヲ萌出セシム其刈法ハ粗製  
鎌ヲ以テ乱伐拾斷スル有様ナレバ純然ニ新梢ヲ發生セシムニ至ラス却テ  
樹命ヲ短縮セシメ成育上ニ弊甚スルモナクハ收葉至テ少ク葉質隨テ不良  
如何ニ當地人ニシテ更葉經濟ヲ辨知セサントハ云ハ其放心の處理ヲ講セサル實  
ニ歎ニ思ハレナリ然リト雖モ當春期徒葉後旧密ナル調査ヲ行ヒレシ早  
中晚ノ桑ニシテ内地ノ市平八市九文竟鼠返ノ類此処彼処ニ點栽セルヲ見

於此当期桑苗楡木ヲ仕立接木苗ヲ造ラント欲シ少量ノ桑想ヲ採リ之ヲ撰擇シ  
有者皆下種ヲナシシ爾來成長シツアルモ此交配ノ為ニ成育不進ニシテ最モ  
僅少ナル内地ヨリ善良ナル接木苗ヲ栽植スル事ニセサルハ何日迄カ該業ヲ盛  
誘導ヲ奨励スル策面白カラズ去リトテ又内地ヨリ夥多ノ桑苗ヲ仰カシ海外  
ノ事トシ運搬上多クノ日教ヲ要スルト其取扱即チ保護ニ注意ノ及ガレニ依  
着後栽植スルモ業已ニ柑性枯死凋衰シ成木スルモノ中其止ル内地ノ所  
距里ノ間ニ於ケル運搬上ノ更創ナル此ノ遠距離ニシテ之ヲ仰カハ其消耗ニ非希  
ニ善ク生スルと思ヒ失ニ過シ事ナレハ當秋季他然アル仕立法ヲ製造シ接木苗  
三尺寸以上ノ多クニシテ市平或本位八市三本嵐迄五百本位割テ千本餘内地  
産ヲ移植シ傍ラニ當春期採取ノ桑想(内地産)五合位ノ購者地於テ專ラ楡  
木仕立ヲ行ヒ以テ桑園ヲ製作スル一方ニ韓民ニ對シ實習的の感念ヲ起サレ一方ニ  
該業ノ可成的の有望ナル事ヲ知ラシムル策トナリ同時ニ技能的日本人ノ行為ニ感心  
ノ一環物ヲシカト思ハレトモ信用上ニ非希ノ影響音ヲ及ボス道ヲ火炭タルカト被相



考之以共聊<sup>子</sup>吾校養蚕製糸ノ概況ニシテ當春季二種ノ園藝種ハ日光  
番椒茄子紫蘇夏葱胡瓜大根火焔菜不斷菜薄蒨菜南瓜里芋等ニシ  
テ此又成育區敷者地ノ土質ニ適ミナル事ハ無之ト被考ス先ハ附言トシテ  
右報告仕也

明治三十五年七月十六日